

令和2(2020)年度栃木県農業大学校評価シート

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)				
3 進路指導の強化	<p>(現状)</p> <p>○H31卒業生の雇用を含めた就農率(研修後就農を含む)は54.2%、進路決定率は100.0%となった。</p> <p>○全入学者に占める非農家出身の学生の割合が、過半数を超えている。</p> <p>○農業法人等からの求人も増加し、雇用就農を希望する学生も増加しているが、希望する部門と求人が必ずしもマッチしない。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症に伴う社会や経済への影響により、例年と比較して、就職活動が停滞傾向にあり、求人等も厳しい状況が予想される。</p> <p>(課題)</p> <p>●大学の設置目的を踏まえた就農率の向上を図る必要がある。</p> <p>●非農家出身者でも就農や農業関係団体への就職に強い進学先としての評価を高めるため、進路決定率100%を達成していく必要がある。</p> <p>●R2年度の就職活動については、例年以上に農業法人や企業等と連携を密にし、学生に対するフォローを積極的に行う必要がある。</p>	<p>就農率 60%(32名)</p> <p>進路決定率 100%(53名)</p>	<p>(1)進路希望の把握と的確な進路指導</p> <p>○個別面談の充実</p> <p>・進路希望の把握と進路決定の早期意識付けを図るため、1年生の早い段階で指導担当職員を中心に個別面談を実施する。</p> <p>・各学科のリーダーや専攻職員など担当内職員が進路に係る指導ができるよう職員間の連携と情報共有を図り、学生ごとの進捗状況に応じた就職活動を支援する。</p> <p>・親元就農、雇用就農及び独立就農を希望する学生には、就農コーディネーターによる濃密指導の時間を設ける。</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・就農後、円滑に経営や雇用就農を開始できるよう、本校学生の進路情報等と地元農業振興事務所の就農情報等を共有していく。</p> <p>○編入希望者への支援</p> <p>・編入希望学生の合格率を向上させるため、大学編入試験情報の随時提供や合格者等との意見交換会等を実施し、編入試験対策の支援を行う。</p> <p>○資格取得の支援</p> <p>・資格取得の意欲向上及び取得率向上を図るため、就農・就職に有利な資格取得情報の提供や資格取得講座の開催及び受講を勧めるなど資格取得の支援を図る。</p>	<p>○個別面談の充実</p> <p>・通常登校が開始された6月上旬、本科1年生の進路について、指導担当職員が面談を実施し、進路希望を把握</p> <p>・本科1年生及び2年生の進路希望調査結果(随時更新)を共有し、各学生に応じた就農・就職活動の助言及び支援を随時実施</p> <p>・就農コーディネーターによる個別就農相談を就農を希望する1年生及び2年生を対象に実施</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・6/19 就農促進研修会の開催 農業振興事務所6事務所 参加学生68名(1年生)</p> <p>○編入希望者への支援</p> <p>・7/17 4年生大学編入希望者を対象にした説明会の開催(本科1年8名)</p> <p>・編入希望学生に対する個別指導(過去問、志望校編入学試験概要等の紹介)</p> <p>実績</p> <p>・酪農学園大学第3年次編入学試験合格(1名)</p> <p>○資格取得の支援</p> <p>・農業機械基本実習Ⅰ、Ⅱの開催(大型特殊64名、けん引24名)</p> <p>・資格取得教養講座(毒劇物取扱者、ワープロ検定、英会話等)の開設</p> <p>・希望者を対象とした資格取得研修の紹介と幹旋 フォークリフト(8/4～7,30名) アーク溶接(8/19～21,22名) ガス溶接研修(7/30～31,19名)</p> <p>・家畜人工授精師養成講習会の開催</p>	<p>D (13名/32名=40.6%)</p> <p>A (51名/53名=96.2%)</p> <p>※評価基準 A: 90%以上 B: 70%以上 90%未満 C: 50%以上 70%未満 D: 50%未満</p>	<p>○個別面談の充実</p> <p>・コーディネーターと指導担当職員との連携や進路情報の共有が図れていなかったため、情報の共有を図るための情報交換や意思疎通を徹底する。</p> <p>○就農希望者への支援の充実</p> <p>・各学生の状況を考慮し、農業振興事務所に割り振り、農振間の負担を軽減する。</p> <p>○編入希望者への支援</p> <p>・具体的な試験対策が講じられるよう編入学合格卒業生との意見交換の実施していく。</p> <p>○資格取得の支援</p>	<p>・農大において、農業の重要性、必要性とともに農業の楽しさをよく知ってもらって就農率が上がることを願う。</p> <p>・就農率が全国平均を大きく下回っているため、雇用も含めた就農率の向上に向け、学生への助言指導等さらなる強化が必要。</p> <p>・就農率について、低下原因を分析し、対策を講じる必要。</p> <p>・就農率向上のために、就農意欲が高い学生の募集と入学してからの就農への誘導等にしっかりと取り組むことが重要。</p> <p>・雇用就農を含めた就農イメージの具体化及び農大生の雇用を希望する経営体とのマッチングを促進するような取組を願う。</p> <p>・就農コーディネーターによる濃密指導時間の充実及び指導担当職員との連携や情報交換等を徹底することが重要。</p> <p>・就農相談がコーディネーターに集中しているので、公社主催の就農相談会への参加促進や相談員の活用を図ってはどうか。</p> <p>・世襲モデルが機能していない日本において、次代の農業経営者の確保するには農業生産技術だけでなく、農業経営者としての幅広い力を身に付けた人材の養成が求められる。農家や農業法人といった現場での長期の就業体験等が重視され、これらの体験が課題の発見や経営ビジョン作成などとして卒業研究等に生かされるようなカリキュラム及び進路指導が望ましい。</p> <p>・就農を希望し、農大に進学しながら進路を変え就農しない学生もいる。これには就農をためらう理由も考えられ、高校における進路指導にも役立つことから、学生の就農や農業に対する意識の変化等について分析や情報提供をお願いしたい。</p> <p>・非農家の就農については農地確保が大きな課題であり、公社の農地バンク事業を活用してはどうか。</p> <p>・将来的に経営状況の把握や経営向上に取り組めるよう、希望者には簿記等の資格が取得できるような支援体制を整備することが必要。</p>

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
		評価指標	取組項目(○)と内容(・)				
			<p>(2)就農イメージの早期確立</p> <p>○就農促進講座等の活用 ・就農意識を高めるため、就農(雇用就農)している本校卒業生や農業法人等との意見交換会を開催する。</p> <p>○農業法人等へのアプローチ ・就農イメージの具現化を図るため、県内農業士等、先進的経営体や農業法人等への校外学習等を計画的に実施する</p>	<p>○就農促進講座等の活用 ・11/6 就農促進シンポジウムの開催 卒業生7名(就農3名、雇用就農4名)を講師とし、就農に関する意見交換を実施(参加学生数 1年生69名)</p> <p>・11/27 企業経営研修会(雇用就農相談会)の開催 参加農業法人等23経営体、参加学生72名 (1年生69名、2年生3名)が参加し、雇用就農に対する理解を深めた。</p> <p>○農業法人等へのアプローチ ・就農イメージの具現化を図るため、本科1年生及び2年生を対象に農業生産法人等に校外学習を実施 農業経営学科 6回8カ所 園芸経営学科 6回10カ所 畜産経営学科 7回9カ所</p>		<p>○就農促進講座等の活用</p> <p>この相談会は、1年生を対象に各経営体からの経営の全般的な説明により、雇用就農を理解する場であることから、会社説明会と誤解を受けないよう、名称を研修会に改めて実施する。</p> <p>○農業法人等へのアプローチ ・コロナ禍で断られる法人もいるため、オンラインも利用しつつアプローチの機会を拡充する。</p>	<p>・企業経営研修会(雇用就農相談会)をより多く開催することが重要であるとともに、学生が希望する先進経営体実習を実施できるよう支援をしていくべき。</p> <p>・学生により年齢の近い、若手の農大OB、OGなどの活用・協力により、学生の就農意欲の向上につながるのではないかと。</p> <p>・就農前に農業法人等に就職し、知識経験を高めてから自分の就農につなげる(農の雇用事業の独立支援タイプ)。</p>
			<p>(3)就農等斡旋機能の強化</p> <p>○求人情報等の充実 ・学生の進路希望に応じた情報提供を実施するため、無料職業紹介事業を活用した求人情報や合同企業説明会等情報の常時閲覧とデータベース化を実施する。</p> <p>・農業振興事務所及び県農業法人協会等と連携を図り、農業法人情報の収集と学生への提供を実施する。</p> <p>・就職活動を実施した学生に対する「就職活動報告書」の作成指導及び既存報告書を活用した就農・就職指導を実施する。</p> <p>○雇用就農・就職支援 ・過去に求人であった企業・法人に対して、求人の確認や求人票の提出を依頼するほか、校外学習の開催やインターンシップへの参加等を斡旋するなど雇用就農・就職支援の充実を図る。</p> <p>・就農を希望する学生が経済的に不安なく農大で学べるようにするため、農業次世代人材投資事業(準備型)の紹介と活用支援を実施する。</p> <p>・求人票を提出された企業・法人等との説明会を開催し、学生と法人とのマッチングを図る。</p> <p>・農大において、農業関連企業の説明会を開催し、就職等の斡旋の機会を設けるとともに、学生と企業とのマッチングを図る。</p> <p>・学生の要望により模擬面接を実施する。</p>	<p>○求人情報等の充実 ・当校あてに提出された雇用就農、就職等に係る求人票をデータベース化するとともに学生がいつでも閲覧できるように進路指導室に求人票ファイルを常備 ・校内企業説明会の開催及び各種インターンの周知と斡旋</p> <p>・農振に対する求職情報の提供と農振経由の求人情報(雇用就農 3件)の学生への提供</p> <p>・就職活動(企業説明会や採用試験受検)後の学生に対する就職活動報告書の作成指導及び既存報告書を活用した就活対策の支援(随時)</p> <p>○雇用就農・就職支援 ・法人等に対する求人の確認や先進的経営体実習、校外学習及び卒業生等からの求人情報を随時収集・提供 求人企業数 90社 16企業等に先進的経営体実習として44名(内24名短期実習)実施し、25名は校内実習を実施</p> <p>・6月 学生に対し、各学科・専攻から情報提供 ・とちぎ未来塾で申請者4名</p> <p>・6/22 本科2年生を対象に農業法人の説明会を開催 参加学生 5名</p> <p>・6/15 本科2年生を対象に説明会を開催 参加学生 8名 ・オンラインによる企業説明会開催の周知と希望者取りまとめ 参加学生数 19名</p> <p>・希望学生等に対し、各学科ごとに随時、模擬面接や小論文の添削を実施</p>		<p>○求人情報等の充実</p> <p>・記載内容が乏しい報告書が散見されるため、職員による指導を徹底していく。</p> <p>○雇用就農・就職支援 ・学生が希望する先進的経営体実習を実施できるよう農業振興事務所、企業等と連携を図る。</p> <p>・次年度も情報提供し、交付要件を満たす学生については申請を支援する。</p> <p>・特別な配慮を要する学生の就職活動を支援するため、スクールカウンセラーとの情報交換や新卒応援ハローワーク等と連携を図っていく。</p>	<p>・農大側から、各経営体側へ求人票作成等、求人のためのフローの情報提供など、きめ細やかな対応を検討願いたい。</p> <p>・就農を目指す学生に対し、ステージに応じて活用できる国や県・市町の主な制度を説明し理解いただく時間を確保し、就農に際しての不安払拭を図ることが必要。</p>